

気候変動の国際的な取り組み

1992年に国連気候変動枠組条約が結ばれ、1997年には先進国の排出削減目標や具体的なルールを定めた京都議定書が締結されました。

2015年には、京都議定書に継ぐ新たな枠組みとして、全ての国に削減目標を義務付ける「パリ協定」が採択されました。

パリ協定とは？

パリ協定の骨子

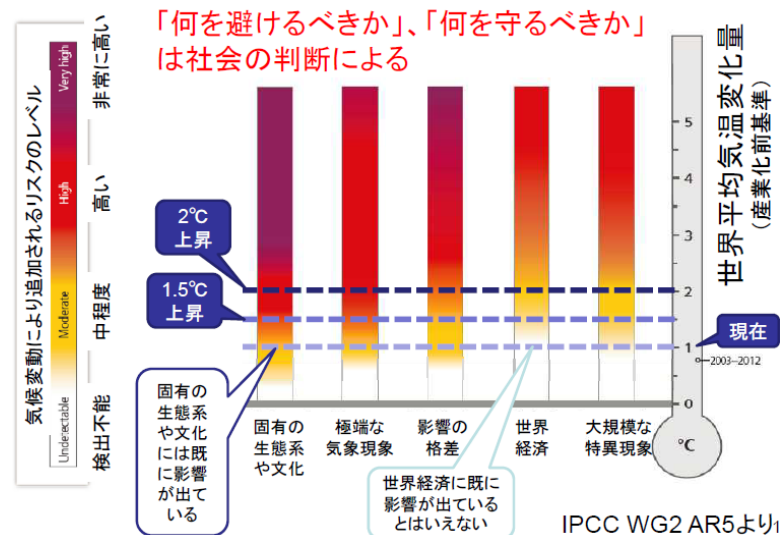
- 産業革命（19世紀末）前からの地球の気温上昇を 2°C 以下にする。また、 1.5°C 未満に抑える努力をする。
- できるだけ早く温室効果ガスの排出量を頭打ちにし、21世紀後半に人為起源の排出を実質ゼロにする。
- 先進国を中心に途上国等への資金援助をする。
- 全ての国が国連に「自主的な削減目標」及び「5年ごとに進展させた目標」を提出する。
- 温暖化被害軽減のための世界の全体目標を設定する。
- 温暖化への適応能力の向上をはかる。

日本は「**2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度の水準から26%削減**する」という目標を2015年7月に国連に提出しています。

地球の気温上昇の 2°C 、 1.5°C の意味は？

右の図は、それぞれの社会的な懸念に対して、気温上昇により、リスクレベルが高まる様子を表しています。

既に生態系などには影響が出始めていること、 2°C 上昇では世界経済にも影響が出る可能性があることなどがわかります。



産業革命以降、気温は既に 0.85°C 上昇しています。また、これまでに排出した温室効果ガスだけでも、今後 1.5°C まで上昇します。

1.5°C に抑えるということは、今後は全く排出しないか、これまでに排出した分も含めて吸収する仕組みを作ることが必要となっています。